

令和5年度 学校評価報告書（後期）

鬼北町立三島小学校

【評定の評価基準】 A：80%以上達成 B：70%以上達成 C：60%以上達成 D：50%以上達成 E：50%未満

【アンケート結果】 4：できている 3：おおむねできた 2：あまりできていない 1：ほとんどできていない

領域	重点目標	評価指標	評定	考察（◇）及び改善方策（◆）	評価資料	評定	評価指数	4	3	2	1
I 明るく 明るく	明るい対話	①子供たちは、地域のことを知ったり、地域の方と交流したりできている。	A 88.7%	◇学校行事や戸祇の子学級等、多くの交流活動が実施でき、地域のことを知るきっかけとなった。そのため、評価も上がっている。児童の中にも、進んで地域と関わろうとする姿が見られるようになった。 ◆地域の方々と触れ合う機会を大切にすることで、目的を明確にし、自分から進んで関わられる児童の育成を目指す。	地域住民	A	93.8%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
		②子供たちは、気持ちのよい挨拶ができている。	A 85.3%	◇登校時や朝の玄関での挨拶は気持ちよくできる児童が増えてきた。しかし、来校者への挨拶が十分にできていない。また、顔を向けての挨拶が不十分な児童もいる。 ◆挨拶が素晴らしい児童を称賛し、相手を見て、気持ちの良い元気な声で挨拶ができる児童を育てる。また、教職員自身が手本となれる挨拶を心掛ける。 ◆子供たちの元気で気持ちの良い挨拶で、保護者、地域の方に笑顔と元気がプレゼントできるよう、引き続き子ども達に呼び掛けていく。	地域住民	A	91.7%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
		③子供たちは、正しい言葉遣いをしている。	B 73.8%	◇前期よりも更に評定が下がってきている。教師の前では、正しい言葉遣いができるが、友達同士ではできていない。低学年の児童にも、敬語を指導する必要がある。 ◆学級活動や道徳の授業などで、言葉遣いについて学習させ、学年に合った敬語や丁寧な言葉遣いを指導する。振り返りや反省、言い直し等を行いながら、丁寧な言葉遣いを習慣付ける。 ◆正しい言葉遣いができる児童を称賛し、全体の前で紹介することで、言葉遣いに対する意識の向上を図る。	地域住民	B	75.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	コミュニケーション力	④子供たちは、相手の方を向いて分かろうとして話を聞き、内容を聞き取る力が付いてきている。	B 73.7%	◇児童の意識は上がってきているが、実際はできていないことの方が多くと見られる。話をしている人の方を向いて聞くことを徹底させたい。 ◆話し合い活動等の場を活用して、話を聞く姿勢について学級の実態に応じた指導を行う。また、きちんと聞き取れているかの確認を行う。	教職員	C	65.6%	0.0%	62.5%	37.5%	0.0%
		⑤子供たちは、人に分かりやすく話す力が付いてきている。	B 75.6%	◇自分の考えや感想を全校の前で進んで発表しようとする児童が増えてきている。しかし、同じ意見を繰り返したり、友達の意見を聞いての考えを発表できる児童は少ない。 ◆教職員で意識統一した話の聞き方や、意見の発表の仕方（話型）を児童に理解させ徹底させていく。	教職員	B	71.9%	0.0%	87.5%	12.5%	0.0%
II 正しく	共に学ぶ力	⑥子供たちは、学習に意欲的に取り組んでいる。	B 77.7%	◇教職員、児童の評価が上がってきている。今後も「分かる授業」「考える授業」「伸びる授業」を目指し、授業改善に取り組んでいるか、評価しながら実践を継続する。 ◆授業のねらいを明確にし、児童には授業の振り返りを行わせ、分かったこと、伸びたことを実感させる。 ◆児童が意欲的に学習に取り組めるようにするための授業改善を積極的に行う。	教職員	B	78.1%	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%
		⑦子供たちは、本を読み、読書の習慣が付いてきた。	B 71.1%	◇本屋へ行くプロジェクトや読み聞かせ会、図書委員会等の取組により、教職員、保護者の評価が上がってきている。しかし、読書冊数は増えてきているものの、個人差は大きい。 ◆学級で本を借りる時間や、読む時間を設定し、進んで読書に向かわせる場をつくる。また、個人で立てた目標冊数が達成できるよう声掛けを行う。 ◆今年度11月から始まった読み聞かせ会を、児童は毎週楽しみにしている。読み聞かせボランティアの方の協力を得ながら、引き続き読書に親しむ機会を設けていきたい。	教職員	B	75.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	豊かな人間性	⑧子供たちは、タブレットや辞書を使う力が付いてきた。	A 88.5%	◇教職員、児童ともに高い評価を維持している。学習での活用や、キーボード練習により技能は高まっている。その分、辞書を使う機会が減っている。 ◆ICT活用に向けての教職員の研修を充実させ、授業の中で効果的に活用できる場面では、積極的に使うようにする。また、国語の授業を中心に、辞書の活用についても積極的に取り組む。	地域住民	A	81.3%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
		⑨子供たちは、友達を思いやり、大切にしている。	A 85.9%	◇高い評価を維持している。お互いの気持ちを尊重し、優しく接しようとする児童が多く見られる。特に、下級生に対して思いやりのある行動が多く見られた。その反面、友達への注意や呼び掛けできつい口調が見られることがある。 ◆道徳の時間や、朝の会、終わりの会等を活用し、相手を思いやることの大切さ、相手の立場に立ってものを考えることの重要性を伝える。	教職員	A	87.5%	62.5%	25.0%	12.5%	0.0%
		⑩子供たちは、困ったときは誰かに相談する雰囲気ができている。	A 86.9%	◇全体的に評価は高い。困ったことを訴えてくる児童には、丁寧な対応ができている。言いにくい児童にも、しっかりと目を配っていく必要がある。 ◆児童が困っている時には即対応できるようにし、普段から情報交換を今後もしっかりとしておく。また、相談があった時には、親身になって話を聞くようにする。 ◆児童が、「学校が大好き。明日も学校に生きたい。」と思えるような、いじめ・仲間外しのない、明るい笑顔いっぱいの学校づくりを引き続き行う。	保護者	A	81.3%	38.9%	47.2%	13.9%	0.0%
					児童	A	88.9%	63.9%	27.8%	8.3%	0.0%

III 強く	めあてをもった生活	⑪子供たちは、自分で手洗いなどに気を付けたり、事故なく安全に生活しようとしたりする意識が身に付いてきている。	A 81.9%	◇感染症予防については、児童自身で気を付けられるようになってきている。 ◇廊下や階段の歩き方については、話し合ったことをしっかりと守れるよう、継続した指導が必要である。 ◆学校だけでなく、家庭や外出先でも感染予防が大切であることを呼び掛け、指導していく。	教職員	A	81.3%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
		⑫子供たちは、朝ごはんを必ず摂る習慣が付き、体を動かすことを楽しいと感じている。	A 83.2%	◇休み時間は、元気に体を動かし遊べる児童が多い。しかし、朝ごはんについては、時々食べていない児童も見受けられる。 ◆朝ごはんに関するアンケートや食に関する講演会を行い、食事の大切さについて保護者にも啓発を行ってきた。今後更に、通信等で家庭にも呼び掛け、協力を得られるよう意識付けを行っていく。	教職員	A	81.3%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
		⑬子供たちは、最後まで根気強く努力する姿勢が身に付いてきている。	A 83.0%	◇前期よりも教職員、保護者の評価が上がってきている。様々な行事や学習を通して、児童の頑張りが感じられた。 ◆頑張っている児童をお互いに励まし合える取組を行い、頑張りを認め合える仲間づくりを行っていく。	教職員	A	84.4%	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%
		⑭子供たちは、目標を立てて取り組もうとしている。	B 78.2%	◇教職員、保護者の評価が上がってきている。生活目標や読書の目標を立てて、取り組んでいる成果が少しずつ表れ始めている。振り返りや称賛を大事にしながら取り組んでいる。 ◆月初めに立てた目標が達成できているか、また、達成に向かっていくか随時チェックさせる。達成できた時には賞賛し、友達と共有しながら、次の目標を立てるようにさせる。	保護者	A	81.3%	38.9%	50.0%	8.3%	2.8%
IV 地域に根差した教育	根気強く努力	⑮立てた目標を意識して取り組み、目標達成に努力した。	B 71.9%	◇研修では、学力向上に関する個人目標などの振り返りを行い実践を積んできた。目標チャレンジシートの達成に向けて努力を続けていく。 ◆学力向上や学級経営、学校運営について教職員に目標を常に意識させながら取り組ませると共に、評価や見直しを行いながら、目標の達成に向けて一丸となって取り組む。	児童	A	84.7%	52.8%	33.3%	13.9%	0.0%
		⑯子供たちの様子を観察し、適切に教育相談を行った。	A 87.5%	◇学校生活アンケートや教育相談を生かし、子供たちが抱えている悩みや問題を把握し、共通理解を図りながら適切に指導や見守りが行えている。 ◆日々の観察や、教育相談等を生かしながら、子供たち一人一人を大切に教育に努める。また、スクールソーシャルワーカーの活用について、教職員で検討していく。	教職員	A	81.3%	38.9%	50.0%	8.3%	2.8%
		⑰校務分掌以外にも、時と場に応じて助け合いができた。	B 78.1%	◇それぞれの立場で、学校のために協力的に仕事を進められ、評価も上がってきている。「HELP」が言える職場づくりを今後も進めていく。 ◆新年度に向けて、教職員の負担等を考えた仕事の割り振りができるように計画を立てる。そして、互いの立場を尊重し合いながら仕事が進められるようにする。 ◆今後も、互いに声を掛け合いながら、笑顔が絶えない職場づくりを目指していく。	児童	A	83.3%	55.6%	22.2%	22.2%	0.0%
		⑱連絡・報告・相談を的確に行い、服務規律を遵守した。	A 96.9%	◇前期よりもさらに評価が上がっている。話しやすく、相談しやすい風通しの良い職場づくりに今後も努めていきたい。 ◆連絡・報告・相談を密にしながらか風通しの良い職場づくりを目指す。また、提出物や調査等の遅れや漏れがないかチェック機能を向上させ、信頼ある学校経営に努める。	保護者	A	81.3%	38.9%	50.0%	8.3%	2.8%
	教職員の資質・能力の向上	⑲学校は、子供たちが安全・安心に生活ができる環境づくりをしている。	A 94.9%	◇地域、保護者から高評価を得ている。今後も全職員で協力しながら、環境点検を行い、児童にとって安全・安心な学校づくりに努めていく。 ◆定期的な安全点検や、児童の見守り活動を通して、安全・安心な環境整備に力を入れていく。また、地域の方からの声を大切にし、児童の指導に役立てていく。	地域住民	B	71.9%	12.5%	62.5%	25.0%	0.0%
		⑳ホームページやケーブルテレビ、各種通信・配付文書、家庭訪問、懇談会、電話連絡等による積極的な情報提供、情報交換を行った。	A 88.2%	◇地域、保護者の評価はAとなっている。ホームページやケーブルテレビでの情報発信はできているものの、学級単位で発行する通信が少なかった。 ◆今後も、紙媒体（各種通信）、画像（ホームページ）、映像（ケーブルテレビ）等を積極的に活用して、情報発信に努めていきたい。 ◆学級通信の発行については、学年によっての大きな差が出ないように声を掛け合い、発行を促す。	教職員	A	87.5%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
		㉑地域に根ざした教育活動やPTA活動に取り組み、保護者や地域・関係機関と積極的に連携した。	A 93.3%	◇保護者や地域との活動も増え、積極的に交流を深めることができている。良好な関係が築けている。 ◆今後も積極的に公民館活動や地域の行事、そしてPTA行事に参加しながら、より良い関係を継続できるようにしていく。	教職員	B	78.1%	25.0%	62.5%	12.5%	0.0%
					教職員	A	96.9%	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%
信頼される学校				地域住民	A	97.2%	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	
				教職員	A	93.8%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
				保護者	A	93.8%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
				地域住民	A	94.4%	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%	

学校運営協議会委員の所見

- ・毎朝の登校時や来客時など、地域に響き渡るような元気で気持ちの良い挨拶ができるようになってきたと感じる。年度が替わって新しいリーダーになっても、引き続き元気な挨拶を続け、「笑顔と挨拶日本一の三島小学校」を目指してほしい。
- ・正しい言葉遣いについては、学校だけでなく家庭、地域でも求められることである。温かい指導の中で、児童を伸ばしてほしい。
- ・人の話を聞き、自分の考えを分かりやすく伝えることについて、小学生である今の時期にしっかりと身に付けさせてほしい。
- ・読書については、読み聞かせ会や読書目標設定の取組等により、習慣化されていくと考える。家庭での読書時間が少ないと考えられるので、働き掛けを行ってほしい。ボランティアによる読み聞かせ会は、本に親しむきっかけになったり、地域の方々との交流にもなったりして、とても良い取組だと思う。
- ・自分が立てた目標を達成し、それを、友達、保護者、地域の方々、先生方に称賛してもらうことで自信につながる。また、できなかった時は、しっかりと自分を振り返り、どうすればよいか考えさせたい。
- ・一人一人に寄り添い丁寧な教育活動がされていると思う。ホームページやケーブルテレビで積極的に学校行事等を発信されており、学校の様子が分かりやすい。
- ・地域とのつながりを大切にしながら、一人一人を大切にされた学校教育が実践されていると思う。「HELP」が言える職場、風通しの良い職場づくりは大切である。今後も保護者が安心して預けられ、子供が安心して通える学校を目指してほしい。

学校の対応

- ・教職員から率先して明るい挨拶をするよう努め、児童の模範となるようにしたい。また、言葉遣いについては、相手の気持ちを考えた言葉のやり取りができるよう、継続して指導を行う。児童ができた時には称賛しながら、コミュニケーション能力の向上を目指す。
- ・学習に対して意欲的に取り組むことのできる児童の育成を目指し、ICTを有効活用するなど、教員自信がしっかりと研修を積み授業改善に努める中で、できる喜びを味わわせ、魅力ある授業にするための工夫や改善に取り組んでいく。
- ・児童は、月2回の読み聞かせ会をとても楽しみにしている。今後も読み聞かせボランティアの方の協力を得ながら、読書に親しむ機会を設け、児童の読書意欲の向上と習慣化を目指した取組を行っていく。
- ・児童一人一人をしっかりと見つめながら、小規模校の特性を生かした、きめ細かい教育を行っていく。また、児童のがんばりや友達への思いやりが見られた場面、そして、協力して取り組んだことなどに対して、称賛する場を数多く設け、自己肯定感を高めるとともに、児童が互いの良さを認め合いながら自分に自信を持てるようにする。
- ・今後もホームページやケーブルテレビなどで、児童の活動の様子や学校の取組を積極的に紹介するとともに、地域のよさを発信し、更に地域が活性化できるようにしたい。
- ・これまで築き上げてきた地域との信頼関係を大切にしながら、今後も地域とともにある開かれた学校・信頼される学校づくりに努める。また、コロナ禍で実施できていなかった地域との合同運動会は、保護者、地域、認定こども園ゆずりつこと連携しながら実施に向けて進めていく。